

へき地児童生徒の学習に関する総合的研究¹⁾

— 施設・設備について —

菊 池 一 美

Studies of the Achievement of the School children in the Remote Districts

— The School-building and Equipment —

ICHIMI KIKUCHI

I 調査のねらいと方法

我々は昭和37年度以降へき地児童生徒（以下へき地学童と略称する）の学力が向上する為にその学力に影響を及ぼす諸要因は何であるかについて共同研究を進めて来た。私は主として行財政の面について調査を行い、その結果について簡単な報告を発表した。（岩手大学学芸学部年報第22巻 p.49以下参照）

私はそこでは市町村当局や教育委員会はその地域なりに努力して居り、それでも尚且最低の物的条件の整備すら意の如くならず、どうしても市町村をこえた広域段階の施策が必要であることを指摘した。所が学校の段階になると学校長の管理運営の如何によっては尚改善の余地が残されて居るのではないかと思われた。然し種々の悪条件の下で苦勞して居られる現場の様子を見るとそのことを強調出来ない様な気がした。

施設々備の点については市町村当局の努力によって一応学校も新築され、理科教育振興法（以下理振法と略称する）産業教育振興法（以下産振法と略称する）による補助金も殆んど全部の学校に行きわたり、予想以上に整備されているというのが私の感じであった。然し果してへき地以外の学校に較べて劣っていないだろうか。この点について更に検討を加え、どの面に国の施策が向けらるべきかを明らかにすることがこの調査の狙いである。

調査方法

岩手県のへき地指定校（分校も1校として計算）332校に調査票を送り、昭和38年12月31日現在で夫々の項目について記入して貰った。又へき地以外の学校との比較の為に平場の代表的学校を小学校、中学校夫々12校合計24校選び之にも同じ調査票を送付した。

調査内容は大きく校地、校舎等の所謂学校施設の面と、各教科の授業に直接必要な教材の面に分け、施設については面積とか教室数、教材についてはその教材の名称、保有数量、利用状況等を調べた。

へき地級別の学校数及び回答校数、回答率などを示すと、表1の様になる。

1) 本稿は昭和38年度文部省の科学試験研究補助金による総合調査のうち、施設設備に関する調査（特に教材調査を中心として）をまとめたものである。担当者は岩館広忠、菊池一美、石川桂可の三名で整理執筆は菊池が之に当たった。

表1. 調査学校数

学校	へき地級別 区分	5 級	4 級	3 級	2 級	1 級	計
		小 学 校	発 送 数 回 答 数 回 答 率※※ %	5 (4)※ 4 (3) 80	10 (8) 6 (5) 60	41 (31) 28 (18) 68	
中 学 校	発 送 数 回 答 数 回 答 率 %	3 (2) 1 (0) 33	4 (3) 0 (0) 0	21 (6) 13 (4) 62	21 (9) 8 (4) 38	44 (5) 26 (3) 59	93 (25) 48 (11) 52 (44)

※ () 内の数字は分校の数を示す。

※※ %は小数点以下を4捨5入したので合計が必ずしも100にならないことがある。以下の%もすべて同じ。

II 調査結果とその考察

私は調査結果を比較考察する観点としてへき地級別によることを考えたが、実際之をまとめてみるとへき地級別の差よりは学校規模による方が意味があることが明らかになったのでこれによることにした。学校規模の区分としては昭和35年文部省で行った理科設備調査昭和36年の学校設備調査を参考にし、表2の様に考えた。

表2 学校規模の区分

区 分	学 級 数	学 校 数	参 考 資 料	
			理 科 (S. 35)	学 校 設 備 (S. 36)
小 I	1 学級	17	I 5 以下	I 5 以下
学 II	2 ~ 5	80	II 6~23	II 6~23
校 III	6 以上	40	III 24以上	III 24以上
	(小計)	(137)	IV 分校	
中 I	1 ~ 2	16	I 分校及2以下	I 5 以下
学 II	3 ~ 5	26	II 3~5	II 6~17
校 III	6 以上	6	III 6~17	III 18以上
	(小計)	(48)	IV 18以上	

1. へき地学校の規模

へき地学校の施設々備で最も目につくことは小規模学校だけそれが劣悪であるということである。そこで先ず岩手県のへき地学校が全国の傾向と較べてどの様な特長をもっているかを見よう。昭和38年6月1日現在で文部省はへき地学校実態調査を行っているがそれによって級別

学校数の構成比(%)を見ると表3の様になる¹⁾。

表3 へき地学校級別数の構成比(%)※

区分	学 校 級 別						中 学 校					
	5	4	3	2	1	計	5	4	3	2	1	計
全国平均	4	6	11	24	55	100	6	8	13	24	49	100
岩手県	2	4	17	30	47	100	3	4	23	23	47	100

※ 文部省報告書では経過措置の学校をも含めているので之を除いて再計算したものである。

之を見ると一級地が最も多く級数が上につれて漸次少くなる点は全国共通であるが岩手の場合、五級が少いのは級地の高い離島がない為と考えられる。その代り二、三級の比率が全国平均より高くなっている。級が高いことは必ずしも小規模学校であるとは限らないのであって級別構成比からは学校規模の推定は出来ないように思う。今一学校当りの児童数、学級数教員数を全国平均と比較してみると表4の様になる。

表4 へき地学校の規模(一学校当り平均数)

区分	学 校 児 童 数 等			中 学 校		
	児童数	学級数	教員数	生徒数	学級数	教員数
全 国	107.9	4.1	5.0	125.6	3.8	6.7
岩 手	88.7	3.5	4.2	84.2	3.1	5.4
へき地を含めた全国※	396.2	10.5	12.9	566.8	12.9	20.0
へき地以外の全国 ※	493.1	12.7	15.5	703.6	15.5	23.8

※ 参考として掲げた。

之によってみるとへき地学校の規模は全国的に見てもへき地以外の学校の五分の一乃至六分の一であり、岩手の場合は更に下廻って六分の一乃至八分の一という規模である。この規模

表5 規模別学校数の構成化(%)

(イ) 学童数別

区分	学 童 数							計
	50 人以下	51~100	101~150	151~200	201~300	301 以上		
小 学	全 国	38	25	15	9	7	6	100
	岩 手	41	23	16	11	5	4	100
中 学	全 国	32	25	15	10	9	9	100
	岩 手	32	40	11	11	4	2	100

1) へき地学校実態調査報告書 昭和38年度 文部省 (S. 39.7 発行)

が小さいということがすべての点で不利な結果を招いていることは後に述べる通りである。しかもこの平均学童数は算術平均であるから大規模学校の影響で実情より多くなっている。むしろ学校の数から云えばその50%が60名（小学校）乃至65名（中学校）の学校でこの数が岩手のへき地学校を代表していると言ってよい。このことは学級数についても云えることでこれを示すものが表5である。尚本調査で用いた学校規模区分による学童数による学校数分布は統計表第1表に示す通りである。

(ロ) 学級数別

区 分		学 級 数									計
		1	2	3	4	5	6	7~11	12~18	19以上	
小 学	全 国	12	27	19	5	5	23	6	3	0	100
	岩 手	12	37	15	4	3	26	3	0	0	100
中 学	全 国	15	17	34	5	4	13	9	3	0	100
	岩 手	19	15	50	4	0	10	2	0	0	100

以上の事実から予想されることであるが、へき地学校に於ては一学級当りの学童数も極めて少い。本調査によればへき地全体の平均で小学校25.7名、中学校28名で之を級別にみると、5級地小学校14名、以下級が下る毎に17.5名、21.8名、24.6名、27.7名、中学校では14名（4級地回答なし）20名、29名、31名と級が下るにつれて多くなっている。これをみるとやはり級が高くなるにつれて小規模になるという結論になる様である。

2. へき地学校の施設

へき地学校の施設について、私は昭和37年度の調査報告書¹⁾において現行施設基準が一学級50名、12学級程度の学校を標準にして作られている為に、この標準以下の小規模学校では学童一人当りの面積は現行基準をはるかに越えていても、実際は極めて不十分な施設しか保証されず教育上支障を来していることを指摘しておいた。本調査でもこの観点から施設の絶対量と学童一人当りの量を調べ如何に現行基準が小規模学校に不適當であるかを実証しようとした¹⁾。

(1) 校 地

校地については一応基準と考えられるものは、日本建築規格、木造小学校建物 J E S 建築1302（昭和24年文部省、商工省告示第1号）に、小学校12学級以下の場合、児童1人当り面積20m²（約6.6坪）、中学校の場合は学級数でなく生徒数480人未満の場合一人当り30m²（9.9坪）とされている。若し仮にこの基準通りに考えると15%もある20人以下の学童数の学校の場合、小学校で132坪、中学校で198坪となる。この校地内に校舎等の必要施設を建てることになるか

1) 前掲、岩手大学学芸学部年報、第22巻

1) 昭和39年5月、義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令等の一部を改正する政令（政令第153号）で基準が学童一人当りの考え方から学級当りの基準に改正されたのでこの不合理は将来なくなるであろう。

ら、屋外運動場をとる余地は全くなくなる。この点から考えても小規模学校については別の基準が必要と云えよう。本調査による学校規模別校地面積を示すと統計表第2表の様になる。

之を見ると、小学校の場合一学級の学校（分校を含む）は殆んど500坪以下であり、又6学級以上になると大体1,200坪、以上となっているが、その中間の2~3学級の学校となると最狭63坪というものから3,900坪というものまで広い分布を示している。所が学校の方になると戦後の設置の為か小規模校でも或程度の広さを持っている。たゞ体育科の授業という観点からすると小学校でも1,180坪（3,900m²）中学校では3,640坪の屋外運動場がほしいと云えるので仮に之を加へ基準校地面積を小中夫々1,600坪と4,000坪としてこの基準を上廻るものを数えると、小学校33校（24%）、中学校4校（8%）である。然し之を学童一人当りの面積という観点から見れば基準をこえているものが小学校で82.5%、中学校でも66.6%とはるかに多くなっている。

(2) 屋外運動場

屋外運動場についても公の基準としては前述の日本建築規格に中学校のものがあるだけである。実際にどれ位の運動場をもっているかを示すものが統計表第3表である。之によってみると同じ規模の学校でも広狭の差が大きいが広さの順にならべ中間に位する坪数（中央数）を以てその規模の学校の代表値とすると表6の様になる。又前述の基準（小1,180坪、中3,600坪）をこえる学校数は小学校で28校（20%）、中学校で1校（2%）にすぎない。

表6 屋外運動場の広さ

学 校 規 模	小 学 校				中 学 校			
	I	II	III	平均	I	II	III	平均
中 央 数 (坪)	200	500	1,000	600	500	900	1,800	900

一般に我国の学校では屋外運動場の面積は体育科の必要とする基準からすれば狭く、昭和36年の文部省調査によれば小学校の40.7%が760坪未満、中学校の48.8%が1,500坪未満となっているのでその点から云えば小規模学校を除きへき地学校でも特別に劣っているとは云えない様である。

(3) 校 舎

校舎の面積基準は日本建築規格によると小学校児童一人当たり4m²（1.2坪）中学校生徒一人当たり7m²（2.1坪）とされている。然し実際は義務教育諸学校施設費国庫負担法の補助基準である小学校0.90坪、中学校1.08坪が実施されて居り上の建築規格による基準は空文化している。校舎面積の実態は統計表第4表に示す通りであるが、之によると大体(1)の校地について云ったと同じことが云える。即ち学級数に比例して広がっていることは当然であるがそれでも同じ一学級の学校でありながら208坪という過大なものから18坪という狭いものまでである。前者はダム建設完了と共に極度に児童数がへったものであり、後者は9名の児童数をもつ4ヶ学年複式の分校で学級と殆んど同じ位（15坪）の教員住宅をもっている。

一方国庫補助基準という観点から之を見ると小学校で8.4%、中学校で10.4%が基準以下であるから結局90%はこの基準を上廻っていることになる。所がその実態をみると教室が不足で

特別教室がとれないで居り、又そのもっている教室も最小の規模のものとなって居る。従って新しい教育課程によって例えば技術・家庭科をやるとしても実習室はおろか教材を置く場所さえない有様である。試みに学童一人当り面積の分布を示すと統計表第5表の様になる。これによると一人0.9坪以下から10坪以上という大きな広がりをもっている。この様に大きな格差のあることはへき地学校の一つの特長でもありこれはあらゆる点において云えることである。

(4) 講 堂

講堂は実質的に屋内運動場でもあり之を別々に持っている学校は調査学校には一つもない。それ所か講堂さえない学校が全体として30%もある。殊に一学級しかない学校ではその70%がそうでここではただ一つの教室で一切の教育活動を行わざるを得ないということになるのである。学校規模別の所有率は表7に示す通りで、適正規模の学校になると所有率が上昇していることがわかる。講堂の実際の広さについては統計表第6表に示してある。

表 7 講堂の所有率 (%)

区 分	学校規模	I	II	III	計 (平均)
	小 学 校		29	70	80
中 学 校		56	77	100	73

(5) 教 室

如何に施設が貧弱でも最低必要な教室だけは確保しているが然しそれも100%ではなく小学校で3%, 中学校で2%はその教室さえ不足している。しかもこの調査は昭和38年12月31日、現在の調査であるから、39年4月以降、標準法改正で複式学級の定数減で学級が急増した現在一層不足率が大きくなっていることが予想される。昭和38年12月現在で教室数と学級数との関係を示すと表8の様になる。

表 8 教室の過不足の比率 (%)

区 分	小 学 校				中 学 校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
学級数と同じ	65	64	35	56	44	35	0	33
学級数より多い	29	35	53	39	50	65	100	65
学級数より少ない	0	1	7	3	6	0	0	2
不 明	6	0	5	2	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	100	100	100

之を見ると規模IIIでは学級数以上の教室がある率が多く従って特別教室も若干とれることを意味している。所が全体として小学校で59%, 中学校で35%は学級数と同じか或いは学級数より不足して居り、しかも講堂のないものも相当(30%)あることから考えると教室だけで一切やっているものが相当数あることを意味する。しかもそれにも不拘校舍基準からすると90%が

基準をこえていることは繰返して云う様に一人当たり基準という考え方が小規模学校には不適當であるということなのである。(詳しくは統計表、第7表参照)

(6) 教室以外の施設

教室以外の施設としては、保健室、図書室、給食室、教具室、物置小屋についてその有無とその面積を調べた。その所有率を見ると表9の通りである。

表9 教室以外の施設の所有率(%)

区 分	種 数	施設の種類					何もない
		保健室	図書室	給食室	教具室	物置小屋	
小 学 校		8	22	28	19	65	20
中 学 校		19	37	25	27	56	19

このうち保健室と図書室は現行法上原則としておくべきこととされているがその所有率は8%、乃至37%と低い。勿論小規模学校では教室の一隅とか廊下などに図書をおくことも出来ようが、へき地の学力向上の一つのカギとも考えられる体位向上の上から保健室とかその管理に当る養護教諭とかの設置にもっと力を注ぐべきであろう。同じ観点から給食室の20%台というのも全国平均73%（昭和37年度）に比して極めて低い。今日へき地こそ学校給食を最も必要としている所であろう。教具室は教材が充実されるにつれて当然必要とされるものであるが校舎の基準面積が児童数によって押えられ教室すら不足する状況なのでやむを得ず単価の安い物置小屋を建てることになる。従ってその所有率は50%を越して最も高い。所がその様な要求さえ満たされず全然教室以外の施設を何も持たない学校が20%ありしかもそれは必ずしも小規模学校とは限られていないのである。(統計表、第8表参照)

(7) 教員住宅

へき地教育振興策として従来もとられ又今後もとられると思われることはへき地によい教師を迎えるということであろう。そのためにへき地に安心して住んで貰う為の住宅建設が必要となる。そしてこの点では或程度成果をあげていると云ってよい様である。この調査と同時にへき地分校の教師について生活上の困難点について調査したがそれによると住宅の不備を訴えるものは案外に少く、大部分は医者がないこと、交通不便なことをあげていたことも住宅問題が好転したことを証するものではあるまいか。住宅の所有状況をみると80%に近い数を示して居り、学校規模別にみると表10の様になる。

表10 教員住宅の所有率(%)

区 分	規 模	所有率			
		I	II	III	計
小 学 校		47	76	93	77
中 学 校		81	69	100	77

然し80%の所有率と云っても之はへき地教員の80%が住宅を保証されているというのではなく80%の学校が兎も角1棟以上の住宅を持っているという意味にすぎずIIIの規模で100%の学

校よりもIの47%が恵まれていることもあり得る。従って真の住宅事情を示す指数として教員一人当りの坪数を出してみた。表11に示す様に、これ又大きな格差があり一人当たり1坪という所から最大25坪に亘っている。最も多い所は5~6坪でこれを平均と考えると、夫婦と子供一人位は何んとか生活出来る広さでありへき地教員の住宅事情は或程度好転していると云ってよい。(統計表、第9表参照)

表 11 教員一人当たり住宅面積別学校数比率 (%)

区 分	坪 数												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11以上	不明	
少 学 校	1	3	8	16	18	17	9	4	5	6	10	4	101
中 学 校	5	24	8	8	11	19	3	0	0	3	11	8	100

III. へき地学校の教材等

(1) 教材の種類

前述の文部省調査では理科教材については小学校91種中学校155種、その他の教材については小学校263種、中学校347種、合計で小学校354種、中学校502種について調べている。本調査では教材の種類を上記の各種類について学芸学部附属小中学校に於て予備調査し、附属学校にないもの或は余り利用されていないものを除き尚文部省調査にはないが附属学校にあるものを加え、332種を選び、小・中共通の調査票によって調査した。その結果の集計考察に当り比較の基準が必要となり結局文部省調査で立てている基数を基にして保有率を計算しこれによって比較考察を行った。従って新しく加えた教材については基数が立てられていないし又実際上余り保有数量も多くなかったので集計から一切之を除くことにした。その結果実際に調査結果の出たものは小学校224種、中学校261種である¹⁾。

(2) 保有状況

学校がどの程度必要な教材をもっているかを見る為には、どれ程の教材を持つべきかの基準が必要である。然し今日その様な意味の基準は立てられていない。前述の様に文部省の教材調査では教材毎に基数というものを立てているが、之も文部省自身この調査のために一応きめたもので教材の基準を示すものではないと云っている。然し今の所他に適当なものがないので本調査でもこの基数に基づいて保有状況を見ることにした。即ち教材毎に基数に応じてその学校が持つべき数量の何%を実際に持っているかを示す数を保有率とし、この数を以て比較考察することにした。保有率の考え方には数量の外に金額による出し方もあり、文部省調査では教材毎に

1) 教科別の内訳を示すと以下の様になる。

学校	教科										計
		共通	国語	社会	算数 (数学)	音楽	図工 (美術)	家庭 (技・家)	体育 (保体)	理科	
少 学 校		25	/	11	15	21	38	34	19	61	224
中 学 校		20	3	13	11	21	8	90	26	69	261

基準単価をきめておいて教材の数に乘じ、その総額から保有率を出している。之は各種各様の教材を金額という共通の尺度で比較出来るという長所がある。然し高価なものが強く影響するという欠点も考えられる。反対に数量の方には安価なものを沢山もっていると比率が上るといふ弱点がある。従って教材調査に当って岩手県教育委員会が行っている様に数量と金額の両方を出すのが合理的であるが、本調査では集計の簡単な数量に基く保有率のみを算出した¹⁾。

教科別、学校規模別の保有率を示すと表12及び表13の様になる。教科の教材保有率はその教

表 12 教科別学校規模別教材保有率 (%) (小学校)

学校規模 教科	へき地学校				比較校	参考 (S36文部省調査)		
	I	II	III	計		岩手 (数量)	岩手 (金額)	全国 (金額)
イ 共通教材	29.1	46.0	38.3	38.6	55.6	47.3	23.1	31.2
ロ 社会科	59.6	69.5	58.8	59.3	134.4	32.3	45.3	59.1
ハ 算数科	32.5	47.5	32.0	37.0	86.6	23.2	20.0	29.6
ニ 音楽科	32.3	49.0	36.6	41.2	47.4	29.0	28.6	38.8
ホ 図画工作科	5.3	11.5	11.4	10.4	24.3	6.5	8.2	13.0
ヘ 家庭科	7.3	13.8	19.1	14.7	15.3	8.4	11.4	18.9
ト 体育科	12.5	27.1	29.7	26.2	53.5	20.1	17.9	29.3
チ 理科	25.0	45.3	61.5	49.2	92.5	※		

※ 理科教材についてはS.35度に行つたが学校規模の区分基準が異なるのであげないことにする。

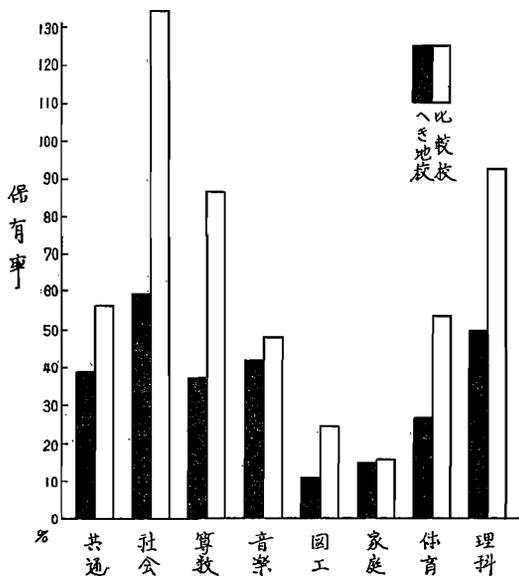


図 1 教科別教材保有率 (小学校)

科の教材毎の保有率の算術平均である。更に教材毎の保有率につきへき地校と比較校を比較して示したものが図1及び図2である。

前述の様に私がへき地学校を訪問して感じたことは予想以上にその設備が充実しているということであったが然し実際に数字でその保有率を比較してみると著しく劣っているという外はない。比較校は15~17学級の岩手県としては整備した学校であるからそういう結果になったとも云えるが、地域によって格差のあるべきでない義務教育に於て保有率が半分に近いというのは問題である。教科別にその保有率をみると社会科が最もよく次いで理科、音楽科となって居り共通教材も比較的よい。最も低いのは図画工作科と家庭科で10%台にすぎない

1) 学校設備調査報告書 昭和36年度 文部省教育調査 1962 (岩手県公立学校の学校設備の実態) 岩手県教育庁 参照

が、この充実順位はへき地特有のものでなく全国的傾向である。社会科教材は余り高価なものではなく比較的買い易いこともあろうし、理科の方は理科教育振興法による補助金の効果と云ってよいのではなかろうか。図工科や家庭科は教材なしでも何んとかやれるとか、時間数が少いかいという必要度の低いことも考えられる。音楽科は全国水準或は岩手県水準に比してむしろ高くなっているが之は私が昨年二三のへき地校を訪問して感じたことを数的に裏付けていると云えよう。教材充実の為には理科に見られる様に補助政策などは有効な方策である。

次に学校規模別に比較してみると、全国調査では規模が大きくなるにつれて例外なく保有率が高くなって居り、岩手県でもそうである、所が本調査ではⅠとⅡの規模の間にはそれが見られるがⅡとⅢの間では必ずしもそうはなっていない。之は規模の区分が違う為で、全国調査ではⅢに6~23学級の学校が入っているのに本調査ではⅢに含まれる40校のうち36校が最低の6学級で残り4校も7~11学級にすぎず従って基数が高すぎることによるので必ずしも教材の充足度が事実上劣っていることを意味するものではない。例えば幻燈機6台が基数となっているが23学級の学校ならそれが適当であろうが6学級に6台は基数として多すぎるのである。Ⅰが低くなっているのも全国調査では1~5学級を1グループとして基数を定めている為にたった1学級の学校には高すぎる基数もある為である。従って本調査に於てⅠとⅢの保有率は必要度から云えばやや低すぎる数値を示していると云ってよい。岩手県のへき地の実態を忠実に示すものはⅡである。教材についても校舎の所で云った様に小規模学校についてはもつときめ細かい基準を考える必要があると考えられる。

小学校の教材一つ一つについての保有数及び保有率を示すと統計表第10表の様になる。之について以下簡単に特長的なことを述べよう。

先ず共通教材では、校内放送設備、テレビ、テープレコーダー、電蓄、騰写版及びヤスリ、レコード、紙芝居台本、及びその舞台などは50%をこしている。テレビの著しい普及に比してラジオが13%と低いのは基数がⅠの規模の学校でも5台と高いことにもよるが、又一方へき地に於て如何にテレビが歓迎されているかを示すものであり、調査校137校に対して118台と平均1校当たり0.9台という高さである。一学級の学校に校内放送など必要がない様でもあるが、そういう所は一名の教員しか居ないので利用度が高いし、又部落の広報用にも利用出来決して大規模学校にだけ必要とは云えない。

社会科教材は保有率が高いことは全国共通であるが、その中で岩手県地図とか郷土地図とかが低いことは問題である。

算教科では50%をこすものは大型計数器、大型ソロバン、大型分度器等教授用のものに限られ、児童貸与用のものは余り高くない。

音楽科教材では、シンバル、大ダイコ、タテエ、ハーモニカ、カスタネット、メトロノーム、五線黒板が50%以上であるが、基本的に必要なピアノ、オルガンが20%台であることは問題である。比較校に於てはこれらは70%~50%であり利用度も高いことから考えて充実の必要があるであろう。

図画工作科は教科としては最低の保有率を示している。その中で図画関係は40%台のものもあるが工作関係になるとカンナとノコギリが10%ある位であとは皆無の状況である。科学技術時代と云われる今日、産振法の如き性格の法律を小学校にも考える必要がある。

家庭科も全体として10%台にとどまる。わずかに50%をこすものは鏡、柱時計、応接用茶

器と余り授業に必要でないものである。興味のあるのは比較校ではこの三つはいずれも0%となっていることで恐らく鏡や時計も教員室のものなどを数えたのではあるまいか。そうすると一層比率は低いわけで殆んど皆無の実情である。

体育科も全体として予想より低い。50%前後のものは、ボール、バット、マット、バトン、ピストルなどである。文部省調査には基数を示していないが野球用具ほどの学校にもありグループの如きは1校当り平均5位はもっている。

理科教材で50%以上のものをあげると、巻尺、自動上皿ばかり、温度計、交流電流計、足ぶみフイゴ、コルク圧搾器、磁製乳鉢、試験管立て、アルコールランプ、ルーペ、歯車及び比較

表 13 教科別学校規模別教材保有率 (%) (中学校)

学校規模 教科	へき地学校				比較校	参考 (S36 文部省調査)		
	I	II	III	計		岩手 (数量)	岩手 (金額)	全国 (金額)
イ 共通教材	28.1	31.6	20.8	28.2	43.7	42.1	25.7	31.8
ロ 国語科	6.3	19.7	4.7	10.0	5.7	6.1	10.2	13.3
ハ 社会科	72.1	89.6	52.8	67.2	44.6	46.0	39.0	50.0
ニ 数学科	63.8	76.4	48.9	67.2	69.5	42.4	33.8	36.7
ホ 音楽科	10.4	24.9	28.9	22.2	38.1	15.8	24.4	35.1
ヘ 美術科	21.4	37.7	32.0	32.0	61.5	15.9	15.4	29.0
ト 保健体育科	28.5	36.9	31.2	32.8	47.0	20.6	22.0	34.9
チ 技術・家庭科	17.4	40.0	29.3	34.5	51.5	20.2	21.6	29.9
リ 理科	38.1	36.2	48.3	37.6	71.7	※		

※ 理科教材については S.35 年度に行ったが学校規模の区分基準が異なるのであげない。

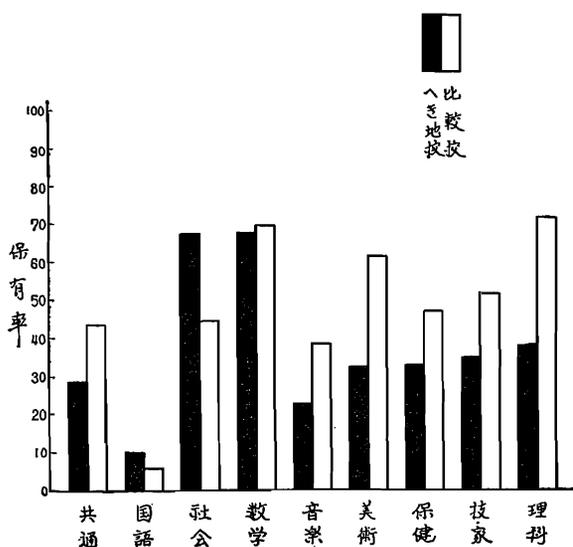


図 2 教科別教材保有率 (中学校)

車装置、真空ポンプ、線膨張試験器、金属膨張試験器、光学用水槽、凸面鏡、凹面鏡、凹レンズ、プリズム、直角プリズム、電磁石、プザー、アネロイド気圧計、室内用温度計、最高温度計、最低温度計、乾湿計、などである。全体として49.3%と高いのは前述の様に理振法適用の結果であるが、然し比較校の92.5%と比較するとまだまだ充実度が低いと云わざるを得ない。

表 13 は中学校の教科別学校規模別教科保有率を示すものであるが、之について小学校と同じ様な観点からふれてみよう。(図 2 も参照)

全体的に云って小学校程の差は比較

校との間に見出されないし、又教材の充足度も小学校よりは高い様である。国語科と社会科ではへき地学校の方がよくなっているが之は地図などの数え方にもよるであろうしもっとよく検討してみないと確信のあることは云えない。ただ教材を最も必要とする保健体育科、技術・家庭科及び理科に於てはやはりへき地校が相当劣っていることは確かである。

教科別に云えば数学科と社会科が70%に近い保育率を示し、次いで理科、技術・家庭科、保健体育科、美術科の順でいずれも30%を越している。相当金のかかる理科、技術・家庭科のよいのは理振法、産振法の効果であろう。又美術科が小学校の図画工作科と違って高いのは工作関係が技術・家庭科に移された為である。現地訪問の印象と異ったのは技術・家庭科の教材が案外高い保育率を示したことである。この教科は性格の異なる8つの分野に分れているがその分野毎の保育率を示すと表14の様になる。

表 14 技術・家庭科の分野別教材保育率 (%)

分 野 区 分	栽培	製図	木材加工	金属加工	機械	電気	被服	調理	計
へき地	51.0	42.2	36.9	35.2	28.0	56.7	27.8	29.0	34.5
比較校	69.5	77.2	44.5	54.2	30.3	98.8	37.5	29.3	51.5
参 考 岩 手 ※	47.0	31.3	19.7	11.1	8.3	14.3	16.0	21.5	20.2

※ S.36年度の文部省調査を県でまとめた結果による。(数量の比)

前述の様に本調査では必要な教材でも附属学校などで持っていないものを除いた為、参考資料に掲げた保育率(岩手)と大分違っている。例えば金属加工、機械、電気の比率が高くなっているのは教材が一部に限られている為に必要なものをあげたらはるかに低くなるのは当然である。従ってここでは比較校との比較だけが意味あることになる。保育率の高いものは特殊な事情にある上の三分野を除くと栽培、製図で之は従前の農業の遺産をうけつたものと、比較的始め易い設計製図から手をつけたことによる。産振法による充実は主に木材加工関係の教材に向けられこれも40%に近くなっている。女子向きの被服、調理関係が20%台であることも注意すべき点であろう。

次に学校規模別に保育率をみると小学校について云ったと同じ様に必ずしも規模が大きくなるにつれて保育率が高くなっていないことが指摘出来る。即ち音楽科、理科を際いてはⅡの規模の方が率が高い。これはⅢと云っても対象校6校中5校が最低の6学級であり基数が高くなっている為相対的に比率が低下する為である。又音楽科を見るとその保育率は小学校の半ばたる20%台であるがそれだけ劣っているとは云えない。この様な数の開きが出て来たのは小中併設校のある為である。併設校とは一応施設設備教員は別々でありながら同一校長が両校を管理しているもので校舎も同一校地内にありしかも一つの校舎になっている場合も多い。教材についても台帳面では別々になっても利用の場合は共用出来るので例えばピアノは小学校にあっても中学校でも利用しているのである。然し調査の上では中学校にはピアノはないことになる。この様な点から学校規模の一分区として併設校を考えたがこの調査ではその点まで明確に区分出来なかった。へき地学校の実態をつかむ為には是非この併設校について追求する必要

がある。又前年の報告書でものべておいたが物や人の面の効率的利用の面からもへき地学校ではこの併設主義を生かすことがよいと思う。

中学校の教材個々の保有数、保有率については統計表第11表に詳しく示す通りである。先ず共通教材で50%をこすものをあげると校内放送設備、幻燈機、テレビ、映写幕で、ラジオは13%で小学校同様低くなっている。小学校で50%あったテープレコーダーは27%と低いが、これは基数が高い為で一校平均にすると0.9台と小学校平均の0.8台より多い。前述の併設校のあることを考えると大体1校1台にはなっていると云ってよい。

国語科教材は必要度、数から云って別に云う程のことはない。社会科は最高の率を示すが、目立つのは学校所在附近の5万分の1地図の基数が高いのに保有数が少く0.5%程度であることである。

数学科も社会科同様高い比率であるが小学校同様生徒貸与用となると35%前後にすぎない。音楽科では、小ダイコ、大型木琴、メトロノーム、五線黒板はよいが、ピアノ、オルガンという基本になるものは26%、14%と小学校より低くなっている。

保健体育科で50%をこすものは、バトン、ボール用空気入れ、掛図、バレーボール用ネット、ピンポン台、柔道着（教師用）などで平均して32.8%と小学校よりは充実している。ここでも野球用具はそろって居りグローブの如き一校平均で8ヶ位もっている。

技術・家庭科については、表14について述べた様に学習分野によってまちまちである外調査教材の数が限られている為比率そのものは余り信頼性がない。実地に調べた学校について言えばこの数字より低い様に見うけられた。然し産振法によって機械を入れて実習している所もあり、そこでの悩みは特別教室の不足、教師の不足ということで当然のことながらこの教科の充実には施設設備、教師の三つの面から考える必要があると云える。然し機械に取組んでいる生徒の目は生き生きとして居り進学のみを考えなくてよいへき地の学校にこそ、この面での充実が一層緊急を要するのではないかと思われた。

理科で50%以上の教材は、足ふみふいご、コルク圧搾器、磁製乳鉢、実験用テコ、歯車及び調車装置、真空ポンプ、線膨張試験器、光学台、光学用水槽、平面鏡、プリズム、磁針、電鈴、共鳴をんさ、百葉箱、風向風力計、雨量計、アネロイド気圧計、乾湿計などで、平均保有率37.6%となりこの点では小学校より低い。又比較校と較べると約半分にしかいっていない。理振法が一通りまわったことになっているがまだまだ不十分という外はない。

(3) 図書館資料

図書館（図書室）は現行法では学校必置の施設とされているがへき地学校ではその設置率は小学校22%、中学校37%と低い。（表9参照）然し施設がなくとも図書館資料がありよく利用されていれば問題はないわけで、そういう意味で私は図書の保有冊数を調べた。冊数の外にその図書の構成内容も考える必要はあろうが冊数でも大体の見当はつくかと思う。詳細は統計表第12表に示してある。今日学校図書館の基準としては小学校で300冊、中学校で600冊、更に学童一人当り冊数としては、5冊という線が立てられている。この基準から考えるとこの線に達するものは学校としては小学校で58%、中学校で25%、一人当りでは小学校で38%、中学校で60%となる。それが比較校になると学校としての基準に達しないものはないが一人当りとなると基準に達するものはたゞ1校だけで他は全部5冊以下ということになっている。

こゝでも如何に小規模学校が割高な教育であるかを如実に物語って居る。

(4) 教 材 費

以上の考察でも明かな様にへき地学校の教材の充実度は比較校に較べて絶対的に劣っているが、教材充実の基本となる教材費についてはどうであろうか。本調査では昭和37年度の教材費について調べてみた。義務教育費国庫負担法によれば国は政令で定める所により教材費の二分の一を負担すべきこととされ、昭和37年度に於てはその政令基準は小学校児童一人当たり280円、中学校生徒一人当たり420円とされている。小規模学校については学童数について補正が加えられ、150人以下の学校では、本校は $(150人 \times 1.34)$ 分校は $(150人 \times 1.20)$ として計算されその人数分の教材費が来ることとなる。従って仮令1人の学童のいる学校でも小学校で本校56,280円、分校50,400円、中学校では本校84,420円、分校で75,600円の教材費が法律で保証されていることになる。かくて小規模学校では学童一人当たりの教材費は相当高いものとなり、本調査でも一人当たり25,000円(小学校分校)というのがある。その詳細は統計表第13表に示す通りであり、基準以下の所も5校ある。然しこの点について関係教育委員会に問合せた所どこでも基準までは配分しているということであったので、之は恐らく記入者の誤記であろうかと思われる。いずれにせよ半数以上の学校が政令基準の4~5倍の教材費の配分をうけながら尚且設備が劣っているということなのである。へき地学校は経済的に貧弱な町村に多いに不拘、学童一人当たり教育費の単価が何倍も高くかゝりしかも質の劣った教育しか出来ないという誠に救い難い事実を認めざるを得ない¹⁾。

(5) 教材の利用状況

教材が如何に充実されてももし利用状況がよくなければ意味がない。少い教材をよく利用して効果をあげることも十分考えられるわけで我々の関心も強くこの方面に向けられたが、時間や経費の関係で十分この点まで立ち入った分析は出来なかった。こゝでは保有率50%前後の比較的充実している教材についてその利用瀬度をみることにする。

利用状況調査では教材毎に 1.大いに利用する 2.時々利用する 3.余り利用しない の三段階に分けてチェックして貰った。利用度をみる為に1を3点2を2点3を1点としたウエイトをつけその総点数を解答校数で割って利用度指数としてみた。その結果2.5点以上はよく利用されている教材、2点以下は余り利用されていない教材、その中間即ち2.1~2.4が普通に利用されているものと考えてよい様である。主な教材についてその利用度指数別に表示すると表15の様になる。

之は一つの試みであるが、50%台の充足度をもつ教材でも利用のされ方には大きな開きがある。又同じ教材でも小中学校で違うものもある。例えばテレビ、騰写版、ミシンなどはその例である。ピアノ、オルガンは最も利用度が高いが充足率は低い。又利用瀬度は教師の授業の仕方にも大いに関係することであろうことが予想される。その点まで立ち入った調査はしなかったが、実験を主とする理科教材が小学校では案外利用されていないのは、一つには予算不足で消耗品が買えないこともあるかも知れないが、教師が中学と違って専門家でないことも関係

1) 昭和38年3月、政令改正により、学童数補正の計算方法は更に改善され150人以下の学校の場合は、本校も分校も同じ様に $(150人 \times 1.60)$ と0.26だけ多くなったのでいくらかよくなるであろうが之亦抜本的な策とは云い難い。

表 15 利用度指数別教材名

教科	学校	利用度				利用度				利用しない
		2.8以上	2.7	2.6	2.5	2.4	2.3	2.2	2.1	
共通	小学				テレビ		校内放送 テープレ コーダー	電 ト ン ン	紙 芝 居	
	中学			校内放送 ト ン ン	幻燈キ				テレビ	
社会	小学						地方別地 図 別 地 図	日本地図 世界地図 日本歴史 年報		
	中学			日本地図	地方別地 図		岩手県地 図	日本歴史 年表		州別地図
算数 (数学)	小学				大型計算 器	大型分度 器 学生用ソ ロバン	大型ソ ロバン	T 定規		
	中学		大型コン パス		大型分度 器		T 定規	大型ソ ロバン	大型計算 尺	
音楽	小学	ピアノ オルガン				五線黒板	大ダイコ ハーモニ カ	立 メ ト ロ ノ ム	笛 ノ ム	
	中学	ピアノ オルガン			小ダイコ 五線黒板		メ ト ロ ノ ム	大型木琴		
図工 (美)	小学			画板						写生用ト ーキ
	中学	石コウ像						写生用ト ーキ		
体育	小学	ドッチボ ール		パット マット				パ ト ン		ピストル
	中学		ピンポン 台		バレー用 ネット	マ ツ ト				バ ト ン 掛 図 シ ン 器 機
技術 家庭	小学			柱時計				鏡		ミ シ ン 器 機
	中学			ペン ミ シ ン	製 T アイ ロ ン 器	図 定 規 器	板 規 器	肥料 製 ネ ジ マ ワ ツ パ ナ イ タ ン	金切 ミ ハン ダ ゴ テ ヤ ス リ 器	糸 ノ コ
理科	小学			温度計				試験管 テ アル コ ー ル ラン プ 雨 量 計	自動 リ ー ベ ル 磁 ネ ロ イ ド 気 圧 計	電 流 計 流 ズ ム 計 流 ズ ム 計 流 ズ ム 計 流 ズ ム 計
	中学			温度計 試験管 テ アル コ ー ル ラン プ	平面鏡	メ ス リ ン ダ ー	磁 百 風	針 箱 計	又 ブ リ ズ ム 棒 磁 ネ ロ イ ド 気 圧 計	ふ 歯 車 光 熱 試 験

しているのではあるまいか。教材の充実に応じては利用度の高いものを優先すべきは云うまでもないがそれと共に、指導する教師の資質を高めることも同時に考えなければならないであろう。

IV. おわりに

以上岩手県のへき地学校の施設設備、特に教材について現状を分析したのであるが、私はそこに次の様な問題のあることを指摘したい。

その第一は施設の不足である。特に教室の不足が強く訴えられていることである。本調査でも現在最も必要を感じている施設設備は何かを問うた所、小学校の50%、中学校の実に100%が教室を要求している。次いで体育施設に対する要求が強い。この中で教室をとりあげてみると、へき地学校の70%が戦後の建物であり、昭和29年以降のものが51%もある。云ってみれば比較的新しいものが多い。それにも不拘教室不足ということは国庫補助基準が前述の様に学童数一人当たり基準による為に最初から狭すぎたのである。幸にもこの調査後昭和39年学童一人当たり基準が学級当り基準に改正されたのでこれは大きな前進と云える。然し小規模学校をかゝえた町村当局にとっては標準法改正で学級がふえて教室不足を来している矢先、更に校舎の基準が大巾に改正され二重三重に財政負担がかさむ結果になる。折角ブロックの分校を建て一安心した所に、標準法改正で学級がふえ、教室の中に二坪位の板仕切をして授業している所を見たが、又すぐ増築と云う誠にへき地の格差はいつになっても解消出来ない様な現状である。格差是正の抜本的な特別措置がどうしても必要であらう。

第二には、教材の必要基準を確立することである。この調査でもへき地校は比較校に較べて劣っているということは云えるが、何がどれ位必要かという科学的データがないというのが事実である。この方面の研究がどうしても必要ではないか。現場教員に質問した結果では、共通教材たる視聴覚教材、図書辞典類、教科では小学校で体育、理科、家庭、中学校で技術・家庭、体育、理科などに対する要求が強く出されている。

第三は、教材についてもへき地を特別に優遇する必要があるであろうということである。私が予想した様にへき地も相当充実し教材の品目についてはそれ程差はないとしても充足度という点になるとはるかに劣っている。施設については町村当局者も相当熱意を示すが教材は人目にもつかず余り魅力ある仕事ではない。しかも学童一人当りにしてみれば比較校の何倍も金を出していることになる。テレビなどについてはへき地教育振興法で特別措置を構っているがこの考え方を他の重要な教材にも及ぼすことは予算措置だけで可能ではなからうか。町村当局の努力を見るとそこだけをせめることは出来ずどうしても国の援助支援を求めざるを得ないというのが私の結論である。

III 統計表

(第1表から第13表まで)

第1表 学童教別学校数

学校規模 学童数	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
1~10人	6			6	1			1
11~20	10	2		12	7			7
21~30	1	10		11	1			1
31~40		16		16	3			3
41~50		12		12	2	1		3
51~60		8		8	1	4		5
61~70		9		9		6		6
71~80		9		9		5		5
81~90		3		3	2			2
91~100		3		3	1			1
101~120		7	2	9	2			2
121~140		1	9	10	2			2
141~160			9	9		3		3
161~180			4	4			1	1
181~200			6	6			2	2
201~250			1	1			2	2
251~300			6	6				
301~350			2	2			1	1
351~400			1	1				
401以上 不明					1			1
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第2表 校地面積別学校数

学校規模 面積(坪)	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
100以下	2	1		3				
101~200	5	4		9		2		2
201~300	5	7		12	2			2
301~400	1	7		8		1		1
401~500	2	4		6	1			1
501~600		8	1	9	1			1
601~700		3		3				
701~800	1	5	1	7	2			2
801~900		7		7		1		1
901~1,000		3		3		2		2
1,001~1,200		5	9	14		6	2	8
1,201~1,400		7	3	10		3		3
1,401~1,600		2	6	8		1		1
1,601~1,800		4	4	8		1		1
1,801~2,000	1	1	4	6	2	1		3
2,001~2,500		3	4	7	2	3		5
2,501~3,000		1	6	7	1	2	1	4
3,001以上 不明		4	1	5	1	3	3	7
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第3表 屋外運動場の面積別学校数

学校規模 面積(坪)	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
100以下	5	6		11				
101~200	5	7		12	1	1		2
201~300	2	16		18	2	1		3
301~400	2	6	1	9	1		1	2
401~500	1	7	3	11	3	2		5
501~600		7	5	12		3		3
601~700		3	4	7		3		3
701~800		3	1	4	1	1	1	3
801~900	1	3	3	7	1	1		2
901~1,000		2	3	5		1		1
1,001~1,200		3	1	4	1	1		2
1,201~1,400		6	4	10	2	1		3
1,401~1,600			3	3	1	2		3
1,601~1,800		2	2	4		1	1	2
1,801~2,000			4	4		1		1
2,001~2,500		1	3	4		3	1	4
2,501~3,000		1		1	1	1	1	3
3,001以上 不明		1	1	2		1	1	2
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第4表 校舎面積別学校数

学校規模 面積(坪)	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
30以下	3	2		5	1	1		2
31~40	6	1		7				
41~50	2	1		3	1	1		2
51~60	3	6		9	1	1		2
61~70		3	3	6	1	1		2
71~80	1	7		8	1	1		2
81~90		8	1	9	1	3		4
91~100	1	8		9		1		1
101~120		5	1	6		2		2
121~140		5	1	6	1			1
141~160		8		8	1	2		3
161~180		4	1	5		1		1
181~200		3	4	7	1	2		3
201~250	1	3	7	11	4	2		6
251~300		3	6	9		1	3	4
301~350		2	4	6		2	1	3
351~400		3	2	5	1	1	2	4
401~450		1	4	5				
451~500		1	1	2		1		1
501~550		2		2				
551~600			1	1				
601以上 不明		4	2	6		2	1	3
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第5表 学童一人当り校舎面積別学校数

学校 面積(坪)	学校	
	小学校	中学校
0.9 以下	11	
1.08 以下		5
1.0~1.4	20	※ 7
1.5~1.9	29	17
2.0~2.4	23	6
2.5~2.9	16	2
3.0~3.4	6	
3.5~3.9	7	2
4.0~4.4	4	1
4.5~4.9	3	1
5.0~5.4	3	2
5.5~5.9	1	
6.0~6.4	3	
6.5~6.9		
7.0~7.4		
7.5~7.9		
8.0~8.4		
8.5~8.9		1
9.0~9.4	2	1
9.5~9.9		
10.0 以上	3	
不明	6	3
計	137	48

備考 ※中学校の場合これは(1.09~1.4坪)を意味する

第6表 講堂の面積別学校数

学校 規模 面積(坪)	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
20 以下	3	5		8	1			1
21~30	1	6		7	1	1		2
31~40		14		14	1	1		2
41~50		6	4	10	2	3		5
51~60		6	4	10		3	1	4
61~70	1	7	2	10	3	1		4
71~80		1	8	9	1	4		5
81~90		5	7	12		3	2	5
91~100			1	1		1	1	2
101 以上		2	3	5		3	2	5
不明		4	3	7				
計	5	56	32	93	9	20	6	35

第7表 教室の過不足別学校数

学校 規模 区分	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
学級数と同じ	11	51	14	76	7	9		16
学級数より多い	3	17	10	30	2	9	2	13
1学級	1	9	7	17	4	3	3	10
2学級		2	1	3	2	1	1	4
3学級	1	3	4	4		4		4
4以上		1	3	4	1			1
学級数より少ない	1		2	3				
不明								
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第8表 教室以外の施設所有学校数

施設名	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
保健室	0	3	8	11	2	6	1	9
図書室	1	12	17	30	7	9	2	18
給食室	2	23	13	38	4	7	1	12
教具室	2	10	14	26	5	8	0	13
物置小屋	7	53	29	89	8	14	5	27
何も持たない	7	17	4	28	4	5	0	9

第9表 教員住宅の所有数別学校数

学校 規模 所有棟数	小学校				中学校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
有 1 棟	8	46	9	63	9	13	1	23
2		11	19	30	4	1	3	8
3		2	7	9		3	1	4
4 以上		2	2	4		1	1	2
学校に常直	1	2		3				
(小計)	(9)	(63)	(37)	(109)	(13)	(18)	(6)	(37)
無	8	17	3	28	3	8	0	11
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第10表 学校規模別小学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下					6 学 級 以 上					合 計 (137)				
	1 学 級 (17)		2~5 学 級 (80)			基 数		6 学 級 以 上 (40)			(A) の 合 計		(B) の 合 計	(C) × 100	
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率
(イ) 共通															
1. 校内放送設備一式	1	2	12	80	50	63	1	40	90	137	88	137	4	64	
2. 映写機 (16mm)	1	1	6	80	2	3	1	40	3	137	4	137	4	3	
3. 映写機 (8mm)	1	1	6	80	5	6	1	40	33	137	19	137	19	14	
4. 幻灯機	3	11	22	240	71	30	6	240	18	531	124	531	124	23	
5. 写真機 (35mm)	1	1	6	80	2	3	1	40	10	137	7	137	7	5	
6. 撮影機 (8mm)	1	1	6	80	4	5	1	40	20	137	13	137	13	10	
7. テープレコーダー	1	9	53	80	66	83	3	120	32	217	114	217	114	53	
8. テレビ受信機	1	10	59	80	68	85	3	120	33	217	118	217	118	55	
9. ラジオ受信機	5	11	13	400	78	20	15	600	9	1,085	140	1,085	140	13	
10. 電 蓄	1	8	47	80	51	64	2	80	48	177	97	177	97	55	
11. 映 幕 板	1	4	24	80	34	43	1	40	55	137	60	137	60	44	
12. 騰 写 板	1	15	87	80	97	120	2	80	74	177	171	177	171	98	
13. 騰写用ヤスリ	4	22	32	320	206	64	6	240	89	628	440	628	440	70	
14. スライド	80	646	48	6,400	1,765	28	120	4,800	39	12,560	4,257	12,560	4,257	33	
15. レコープ	100	252	15	8,000	3,818	48	150	6,000	64	15,700	7,888	15,700	7,888	50	
16. 録音テープ	5	45	53	400	254	64	35	1,400	16	1,885	523	1,885	523	28	
17. 紙芝居台本	15	141	55	1,200	1,252	104	30	1,200	120	2,655	2,834	2,655	2,834	107	
18. 紙芝居舞台	1	9	53	80	56	70	3	120	36	217	108	217	108	50	
19. ストップウォッチ	2	2	6	160	41	26	4	160	28	354	87	354	87	25	
20. 小 黒 板	6	21	21	480	195	41	18	720	23	1,302	382	1,302	382	29	
21. 方眼黒板	4	68	7	320	61	19	9	360	14	748	117	748	117	16	
22. ものさし (1m以上)	12	28	14	960	213	22	25	1,000	21	2,164	455	2,164	455	21	
23. 巻尺 (15m以上)	3	14	28	240	104	43	8	320	15	611	166	611	166	19	
24. 寒 暖 計	5	25	29	400	236	59	15	600	35	1,085	472	1,085	472	43	
25. て ん ぶ 板	2	4	12	160	57	36	4	160	34	354	115	354	115	33	
平 均			(717)			(1,149)			(959)					(965)	
(計)			29.1			46.0			38.3					38.6	

第 10 表 学校規模別小学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下					6 学 級 以 上					合 計 (137)			
	1 学 級 (17)		2~5 学 級 (80)		基 数	(A)		(B)		(A') (A)の 合計		(B')		(C') B'/A' ×100 の 合計 保有率
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数		(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数			(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	
(ハ) 社会科 教材名	基数	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A)	(B)	(C)	(A')	(B')	(C')	
1. 地球儀	6	102	19	19	480	97	20	240	62	26	822	178	22	
2. 地図 (日本)	1	17	14	82	80	98	121	240	73	30	337	185	55	
3. 地図 (地方別組)	1	17	20	117	80	143	179	40	85	212	137	248	180	
4. 地図 (世界)	1	17	12	71	80	82	102	80	65	81	177	159	90	
5. 地図 (州別組)	1	17	9	53	80	39	49	40	55	137	137	103	75	
6. 地図 (岩手県)	2	34	10	29	160	75	47	240	83	35	434	168	39	
7. 年表 (日本史)	1	17	9	53	80	85	106	160	81	51	257	175	68	
8. 年表 (世界史)	1	17	0	0	80	20	25	80	43	54	177	63	36	
9. 郷土地図	3	51	5	10	240	39	16	320	39	12	611	83	14	
10. 教授用掛け図	1	17	66	390	80	297	371	80	308	386	177	671	380	
11. 日本歴史地図	1	17	14	82	80	24	30	240	10	4	337	48	14	
平均				(906)			(1,066)			(974)			(973)	
修正計算				82			97			88			88	
				59.6			69.5			58.8			59.3	
(ハ) 算数科教材名														
1. 積み木 (1~2cm角組)	6	102	9	9	480	25	5	480	14	3	1,062	48	4	
2. つみ木 (5~10cm角組)	6	102	6	6	480	26	5	480	33	7	1,062	65	6	
3. 立体模型 (組)	1	17	8	47	80	49	61	80	24	30	177	81	45	
4. 測かん (ポール 3本組)	1	17	0	0	80	3	4	80	1	1	177	4	2	
5. 大型計数器	1	17	6	35	80	61	76	80	44	55	177	111	63	
6. 大型そろばん	1	17	17	100	80	90	113	80	54	68	177	161	91	
7. 大型三角定木	3	51	22	43	240	125	52	200	95	48	491	242	49	
8. 大型コンパス	3	51	14	27	240	97	40	200	72	36	491	183	37	
9. 大型分度器	2	34	13	38	160	95	40	120	66	55	314	174	55	
10. T定木又は長定木	1	17	8	47	80	68	85	80	55	69	177	131	74	
11. 計数器 (児童用)	30	510	30	6	2,400	255	11	2,000	315	16	4,910	600	12	

第10表 学校規模別小学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下					6 学 級 以 上			合 計 (137)		
	1 学 級 (17)		2~5 学 級 (80)		基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') B'/A' ×100 合計保有率
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数							
(ハ) 算数科 教材名 (続)											
12. そろばん (貸与用)	10	21	800	482	20	800	324	41	1,770	827	47
13. ます (♯円型組)	6	17	480	96	12	480	65	14	1,062	178	17
14. 自動上皿ばかり	8	16	640	84	16	640	38	6	1,316	138	11
15. 大型時計模型	1	15	80	82	4	80	50	31	257	147	57
平 均								(687) 45.7			(553) 37.0
(ニ) 音楽科教材名											
1. ピアノ	1	17	80	22	2	80	28	35	177	51	29
2. オルガン	5	85	400	141	16	400	103	16	1,125	265	24
3. アコーディオン	3	51	240	46	6	240	33	14	531	87	16
4. シンバル	1	17	80	93	2	80	60	75	177	166	94
5. 大太鼓	1	17	80	77	2	80	48	60	177	138	78
6. 小太鼓	2	34	160	79	4	160	78	49	354	171	48
7. 小よこ笛	6	102	480	121	12	480	14	3	1,062	144	14
8. たて笛	6	102	480	214	12	480	263	55	1,062	524	49
9. ハーモニカ	6	102	480	262	12	480	387	81	1,062	718	68
10. トライアングル	3	51	240	119	6	240	83	35	531	217	41
11. カスタネット	30	510	2,400	1,416	50	2,400	861	43	4,910	2,406	49
12. タンブリン	7	119	560	246	15	560	175	29	1,279	458	36
13. すず	2	34	160	193	4	160	129	81	354	339	96
14. 小型木琴	30	510	2,400	743	50	2,400	513	26	4,910	1,333	27
15. 大型木琴	4	68	320	105	8	320	16	5	708	141	20
16. 譜面台	5	85	400	17	10	400	24	6	885	42	5
17. 調子笛	1	17	80	0	2	80	11	14	177	14	8
18. 擬音笛	1	17	80	34	2	80	12	15	177	46	26
19. メトロノーム	1	17	80	62	2	80	38	48	177	108	61
20. 鑑賞指導用掛図	1	17	80	16	2	80	27	34	177	46	26
21. 五線黒板	1	17	80	46	2	80	36	45	177	91	51
平 均								(769) 36.6			(866) 41.2

第 10 表 学校規模別小学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下						6 学 級 以 上				合 計 (137)		
	1 学 級 (17)			2~5 学 級 (80)			基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') B'/A' ×100 合計保有率
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率							
	基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') B'/A' ×100 合計保有率
(ホ) 図画工作科 教材名													
1. 画板	25	425	0	26	2,200	1	50	35	2,000	2	4,425	61	1
2. 画架	30	510	21	1,196	2,400	50	50	1,071	2,000	54	4,910	2,374	48
3. 静物画用陶器	5	85	15	217	400	54	10	167	400	42	885	397	45
4. 幾何形体	5	85	0	16	400	4	10	25	400	6	885	41	5
5. 石ころ象	3	51	4	45	240	19	5	45	200	23	491	92	19
6. 額ぶち	20	340	1	94	1,600	6	50	158	2,000	1	3,940	254	1
7. 鑑賞指導用掛図	1	17	47	26	80	33	1	22	40	55	137	56	41
8. ぱれん	30	510	5	9	2,400	0	50	12	2,000	1	4,910	26	1
9. 粘土板	30	510	0	30	2,400	13	50	45	2,000	2	4,910	75	2
10. 色彩指導用掛図	1	17	6	37	80	46	1	18	40	45	137	56	41
11. 工作台板	12	204	1	7	960	1	16	3	640	0	1,804	11	1
12. 裁ち板	30	510	6	13	2,400	1	50	33	2,000	2	4,910	52	1
13. 平かん	15	255	12	137	1,200	11	25	116	1,000	12	2,455	265	11
14. 台なおしかんな	1	17	6	1	80	1	1	4	40	10	137	6	4
15. 両刃のこぎり	15	255	14	174	1,200	15	25	88	1,000	9	2,455	276	11
16. のみ	15	255	18	184	1,200	15	50	136	2,000	7	3,455	338	10
17. 四つめぎり	15	255	3	47	1,200	4	25	67	1,000	7	2,455	117	5
18. 三つめぎり	15	255	3	62	1,200	5	25	60	1,000	6	2,455	125	5
19. 木工やすり	30	510	0	7	2,400	0	50	14	2,000	1	4,910	21	0
20. 竹割りなた	5	85	2	5	400	1	10	8	400	2	885	15	2
21. 金づち	30	510	20	155	2,400	6	50	98	2,000	5	4,910	273	6
22. 木づち	15	255	6	81	1,200	7	50	40	2,000	2	3,455	127	4
23. けんのう	5	85	2	40	400	10	10	18	400	5	885	60	7
24. くぎ抜き	5	85	11	80	400	20	10	47	400	17	885	138	16
25. ねじ廻し	10	170	14	113	800	14	20	85	800	11	1,770	212	12
26. 米のこ機	5	85	0	21	400	5	5	45	200	23	685	66	10
27. かね尺	5	85	8	59	400	15	10	42	400	11	885	109	12
28. かけびき	5	85	3	50	400	13	10	34	400	9	885	87	10
29. 直角定木	30	510	2	20	2,400	1	50	20	2,000	1	4,910	42	1
30. ベンチ	5	85	13	88	400	22	10	55	400	14	885	156	18

第10表 学校規模別小学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5学級以下				6学級以上				合計 (137)			
	1学級(17)		2~5学級(80)		基		6学級以上(40)		(A')	(B')	(C')	
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A)の 合計	(B)の 合計	(C) B/A× 100 保有率
(ホ) 図画工作科 教材名 (続)												
31. スベナ	3	4	8	240	44	18	400	17	4	691	65	9
32. 金切りばさみ	15	8	3	1,200	28	2	1,000	27	3	2,455	63	3
33. 金工やすり	15	2	1	1,200	6	1	1,000	25	3	2,455	33	1
34. はんだごて	5	3	4	400	9	3	200	14	7	685	26	4
35. 電氣はんだごて	5	2	2	400	33	8	200	31	16	685	66	10
36. と い し	4	2	3	320	26	8	320	36	11	708	64	9
37. 塗装用はけ	18	0	0	1,440	36	3	1,200	38	3	2,946	74	3
38. 塗装用容器	50	0	0	4,000	5	0	4,000	1	0	8,850	6	0
平均			(202)			(436)			(432)			(389)
			5.3			11.5			11.4			10.4
(ハ) 家庭科教材名												
1. 裁縫板	6	2	2	480	17	4	320	28	9	902	47	5
2. ミシン	6	4	4	480	19	4	320	59	18	902	82	9
3. ミシン用いす	6	3	3	480	44	9	320	35	11	902	82	9
4. 電氣アイロン	6	2	2	480	48	10	320	52	16	902	102	11
5. アイロン台	6	1	1	480	31	6	320	34	11	902	66	7
6. 裁ちばさみ	6	2	2	480	37	8	320	27	8	902	66	7
7. 巻き尺 (2m)	12	204	1	960	27	3	640	21	3	1,804	51	3
8. 洗たく用金だら	16	272	1	1,280	27	2	960	29	3	2,512	58	2
9. 洗たく用洗面器	16	272	1	1,280	33	3	960	46	5	2,512	82	3
10. 鑄	1	17	24	80	52	65	40	34	85	137	90	69
11. 調理台	6	102	2	480	16	3	320	12	4	902	30	3
12. 調理板	6	102	1	480	11	2	320	20	6	902	32	4
13. 自動上皿ばかり	6	102	5	480	26	5	360	13	4	942	44	5
14. 計量カップ	6	102	4	480	27	6	360	39	12	942	70	7
15. 計量スプーン (組)	6	102	4	480	19	4	360	171	54	942	194	20
16. 温度計 (200C°)	6	102	2	480	18	4	360	4	1	942	24	3
17. 柱時計	1	17	47	80	68	85	40	36	90	137	112	82

第 10 表 学校規模別小学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下					6 学 級 以 上					合 計 (137)				
	1 学 級 (17)		2~5 学 級 (80)		基 数	6 学 級 以 上 (40)		合 計	(A') (A)の 合 計	(B') (B)の 合 計	(C') (C)の 合 計	(A') (A)の 合 計	(B') (B)の 合 計	(C') (C)の 合 計	
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数		(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率								(A) 基数× 学校数
(一) 家庭科 教材名 (続)															
18. 厚ふたなべ	6	102	3	480	32	5	27	320	8	902	53	902	53	902	6
19. なべ (20cm以上)	12	204	3	960	81	8	74	640	12	1,804	161	1,804	161	1,804	9
20. フライパン	6	102	5	480	50	10	49	320	15	902	104	902	104	902	11
21. ボール (14cm以上)	18	306	4	1,440	108	8	71	960	7	2,706	190	2,706	190	2,706	7
22. 米あげざる	6	102	3	480	15	3	16	320	5	902	34	902	34	902	4
23. 洗いおけ	6	102	2	480	9	2	9	320	3	902	20	902	20	902	2
24. 湯わかし	6	102	12	480	85	18	43	320	13	902	140	902	140	902	16
25. ほうちよう	16	272	3	1,280	101	8	99	960	10	2,512	208	2,512	208	2,512	8
26. まないた	16	272	2	1,280	57	4	72	960	8	2,512	135	2,512	135	2,512	1
27. 玉じゃくし	6	102	4	480	49	10	58	320	18	902	111	902	111	902	12
28. バ ッ ケ ッ ト	6	102	1	480	19	4	21	320	7	902	41	902	41	902	5
29. バ ッ ケ ッ ツ	6	102	18	480	126	26	76	320	24	902	220	902	220	902	24
30. ひしやく	6	102	9	480	98	20	69	320	22	902	176	902	176	902	19
31. コ ン ロ ッ	6	102	7	480	77	16	98	320	31	902	182	902	182	902	20
32. コ ン ロ ッ 台	6	102	1	480	16	3	4	320	1	902	21	902	21	902	2
33. 食 器	30	510	15	2,400	994	41	932	2,000	47	4,910	2,001	4,910	2,001	4,910	41
34. 応接用茶器	6	102	52	480	294	61	254	320	80	902	601	902	601	902	67
平 均			(250)			(470)			(651)						(502)
			7.3			13.8			19.1						14.7
(ト) 体育科教材名															
1. サッカー用ゴール	1	17	0	80	3	4	4	80	5	177	7	177	7	177	4
2. ボール(ドッチボール)	10	170	37	800	329	41	290	480	61	1,450	656	1,450	656	1,450	45
3. ハンドペースボール	10	170	2	800	47	6	39	1,000	4	1,970	88	1,970	88	1,970	5
4. ソフトボール	20	340	39	1,600	518	32	280	1,000	3	2,940	837	2,940	837	2,940	28
5. ソフトボール用具一式	1	17	1	80	32	40	25	80	31	177	58	177	58	177	33
6. バ ッ ト	4	68	21	320	157	49	119	160	75	548	297	548	297	548	54
7. ペ ッ 箱	8	136	14	640	94	15	66	400	17	1,176	174	1,176	174	1,176	15
8. ふみきり板	8	136	10	640	91	14	64	400	16	1,176	165	1,176	165	1,176	14

第10表 学校規模別小学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下						6 学 級 以 上						合 計 (137)	
	1 学 級 (17)			2~5 学 級 (80)			基 数			6 学 級 以 上 (40)				
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率											
(ト) 体育科														
教材名 (続)														
9. マット	4	68	34	320	136	43	6	240	103	43	628	262	42	
10. 体育用腰かけ	20	340	0	1,600	2	0	25	1,000	29	3	2,940	31	1	
11. 短なわ	40	680	5	3,200	495	15	50	2,000	367	18	5,880	888	15	
12. 長なわ	10	170	2	800	62	8	12	480	44	9	1,450	108	7	
13. ハードル	6	102	0	480	0	0	6	240	15	6	822	15	2	
14. パトロン	6	102	24	480	324	68	6	240	237	99	822	585	71	
15. ビストル	2	34	18	160	62	39	2	80	55	69	274	123	45	
16. ライン引き具	3	51	8	240	59	25	6	240	39	16	531	102	19	
17. 綱引き用つな	1	17	0	80	18	23	2	80	16	20	177	34	19	
18. ボール用空気入れ	1	17	47	80	63	79	2	80	43	54	177	114	64	
19. 平均台	4	68	12	320	47	15	8	320	49	15	708	104	15	
平 均			(237)			(516)				(564)			(498)	
(チ) 理科教材名			12.5			27.1				29.7			26.2	
1. 巻尺	1	17	53	80	46	58	1	40	27	68	137	82	60	
2. メスシリンダー	7	119	16	560	192	34	13	520	174	34	1,199	385	32	
3. 上皿てんびん	7	119	13	560	104	19	13	520	109	21	1,199	228	19	
4. 自動上皿ばかり	1	17	71	80	44	55	1	40	29	73	137	85	62	
5. ばねばかり	7	119	18	560	193	35	13	520	170	33	1,199	384	32	
6. 温度計	13	221	22	1,040	348	35	25	1,000	368	37	2,261	764	32	
7. 直流電圧計	4	68	10	320	54	17	7	280	66	24	668	127	19	
8. 交流電圧計	1	17	35	80	43	54	1	40	37	93	137	86	63	
9. 足ふみふいご	1	17	2	80	36	45	1	40	25	63	137	122	89	
10. コルク圧搾器	1	17	29	80	53	66	1	40	34	85	137	92	67	
11. 磁製乳ばち	1	17	41	80	124	155	1	40	72	180	137	203	148	
12. 鉄製スタンド	7	119	15	560	168	30	13	520	137	26	1,199	323	27	
13. 熨斗	4	68	15	320	98	31	7	280	148	53	668	256	38	
14. 鉄製三脚	7	119	23	560	215	38	13	520	199	38	1,199	441	37	

第10表 学校規模別小学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下				6 学 級 以 上				合 計 (137)		
	1 学 級 (17)		2~5 学 級 (80)		6 学 級 以 上 (40)						
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C)の 合計保有率		
(学 理 教 材 名 (続)	基数	保有数	保有率	基数× 学校数	保有数	保有率					
45. 説明用電信機	2	5	15	160	61	38	274	108	40		
46. 電子一置器	7	5	4	560	138	25	1,199	294	26		
47. 電源装置	1	4	24	80	38	48	137	80	58		
48. 安全装置	4	4	6	320	47	15	668	98	15		
49. 解剖ざり	7	3	3	560	104	19	1,199	203	17		
50. 星座早見盤	7	15	13	560	186	33	1,199	348	29		
51. 解剖ざり	7	18	15	560	151	27	1,199	316	26		
52. 星座早見盤	7	15	13	560	155	28	1,199	312	26		
53. 百葉箱	1	6	35	80	19	24	137	45	33		
54. 風向風力計	1	5	29	80	32	40	137	61	45		
55. 雨量計	1	6	35	80	34	43	137	65	47		
56. プロイクト気圧計	1	8	47	80	43	54	137	80	58		
57. 室内用温度計	1	11	65	80	88	110	137	196	143		
58. 最高温度計	1	7	41	80	48	60	137	85	62		
59. 最低温度計	1	7	41	80	44	55	137	78	57		
60. 地中温度計	1	9	53	80	31	39	137	62	45		
61. 乾湿度計	1	7	41	80	49	61	137	81	59		
平 均			(1,525) 25.0			(2,761) 45.3			(3,749) 61.5		(3,008) 49.3

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下				6 学 級 以 上				合 計 (48)		
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		(A) 基 数 × 学 校 数		(B) 保 有 数		(A') (A) の 合 計	(B') (B) の 合 計	(C') (C) × 100 保 有 率
	(A) 基 数 × 学 校 数	(B) 保 有 数	(C) B/A × 100 保 有 率	(A) 基 数 × 学 校 数	(B) 保 有 数	(C) B/A × 100 保 有 率	(A) 基 数 × 学 校 数	(B) 保 有 数	(A') (A) の 合 計	(B') (B) の 合 計	(C') (C) × 100 保 有 率
(イ) 共 通	基 数										
教 材 名											
1. 校内放送設備一式	1	16	56	26	18	69	1	4	48	31	65
2. 映写機 (16mm)	1	16	0	26	1	4	1	0	48	1	2
3. 写写機 (8mm)	1	16	19	26	1	4	1	17	48	5	10
4. 幻灯機	1	16	63	26	18	69	2	58	54	35	65
5. 写真機 (35mm)	1	16	38	26	2	8	1	17	48	8	17
6. 撮影機 (8mm)	1	16	19	26	2	8	1	17	48	6	13
7. テープレコーダー	3	48	31	78	21	27	6	19	162	43	27
8. テレビ受信機	1	16	50	26	16	62	2	50	54	30	56
9. ラジオ受信機	6	96	13	156	22	16	14	6	336	39	12
10. 映写幕	1	16	81	26	11	42	3	0	48	24	50
11. 磨写板	3	48	17	78	27	35	6	17	162	41	25
12. 磨写用ヤスリ	9	144	15	234	99	42	18	17	486	139	29
13. スライド	80	1,280	28	2,080	457	22	120	9	4,080	883	22
14. レコード	18	288	37	2,080	1,059	51	120	37	4,080	1,798	44
15. 録音テーブ	3	48	15	468	85	18	36	8	972	147	15
16. ストップウォッチ	6	96	17	78	24	31	6	19	162	39	24
17. 小黑板	6	96	17	156	42	30	12	15	324	74	23
18. 方眼黒板	6	96	14	156	23	16	12	11	324	47	15
19. 巻尺 (15m以上)	3	48	31	78	25	32	12	8	198	46	23
20. 寒暖計	6	96	15	156	64	45	12	13	324	87	27
平 均			(561) 28.1			(631) 31.6					(564) 28.2
(ロ) 国語科教材名											
1. 墨つぼ	1	16	0	26	5	19	6	0	78	5	6
2. 習字用黒板	1	16	6	26	8	31	6	3	78	10	13
3. 習字用掛図	3	48	13	78	7	9	6	11	162	17	11
平 均			(19) 6.3			(59) 19.7					(30) 10.0

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下						6 学 級 以 上			合 計 (48)			
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 率 (26)		6 学 級 以 上 (6)		基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') B'/A' ×100 保有率
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数							
	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A')	(B')	(C')				
1. 地球儀	96	11	156	21	13	72	12	5	7	324	27	8	
2. 地図 (日本)	16	13	26	32	120	36	6	4	11	78	49	63	
3. 地図 (地方別組)	16	19	26	47	180	12	2	13	110	54	79	146	
4. 地図 (世界)	32	15	52	45	87	36	6	4	11	120	64	53	
5. 地図 (州別組)	16	22	26	46	180	12	2	10	83	54	78	144	
6. 地図 (岩手県)	16	12	26	32	120	18	3	3	17	60	47	78	
7. 年表 (日本史)	16	13	26	24	93	36	6	17	47	78	54	69	
8. 年表 (世界史)	16	6	26	20	77	36	6	16	45	78	42	54	
9. 郷土地図	16	2	26	8	31	6	1	15	250	48	25	52	
10. 教授用採付図	16	48	26	55	210	18	3	19	106	60	122	203	
11. 日本歴史地図	16	4	26	8	31	36	6	0	0	78	12	2	
12. 学校所在地附近の 5 万分の 1 地図	200	22	5,200	16	0	2,400	400	13	1	10,800	51	1	
13. 産物標本	16	1	26	6	23	6	1	0	0	48	7	2	
平 均					(938) 72.1				(688) 52.8			(875) 67.2	
(一) 数学科教材名													
1. 立体模型 (組)	16	10	26	12	46	6	1	2	33	48	24	50	
2. 測かん (ポール3本組)	96	2	156	5	3	72	12	0	0	324	7	2	
3. 大型そろばん	16	9	26	14	54	12	2	4	33	48	27	56	
4. 大型三角定木	32	26	52	46	89	36	6	16	45	120	88	73	
5. 大型コンパス	32	17	52	31	60	24	4	13	54	108	61	57	
6. 大型分度器	16	15	26	29	110	12	2	8	67	54	52	97	
7. T 定木又は長定木	16	40	26	79	304	12	2	25	208	54	144	266	
8. そろばん (貸与用)	10	47	26	133	51	120	20	20	17	540	200	37	
9. 平板測量器	48	4	78	14	18	36	6	1	3	162	19	12	
10. 大型計算尺	16	7	26	15	58	12	2	4	33	48	26	54	
11. 計算尺 (貸与用)	480	112	780	296	38	300	50	135	45	1,560	543	36	
平 均					(831) 76.4				(538) 48.9			(739) 67.2	

第11表 学校規模別中学校教材保有率(%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下				6 学 級 以 上				合 計 (48)		
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		基 数		6 学 級 以 上 (6)		(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C)の 合計
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数			
5. 額 ぶ ち	20	1	0	520	48	9	300	10	1,140	59	5
6. 鑑賞指導用掛図	1	3	19	26	12	46	18	2	48	17	35
7. 粘土板	50	10	1	1,300	0	0	300	0	2,400	10	0
8. 色彩指導用掛図	1	4	25	26	10	39	18	2	48	16	33
平 均			(170)			(301)					(255)
			21.4			37.7					32.0

(ト) 保健体育科教材名		(A)	(B)	(C)									
基数	保有数	保有率	基数	保有数	保有率	基数	保有数	保有率	基数	保有数	保有率	基数	保有数
1.	16	31	26	6	23	1	6	48	11	23	48	11	23
2.	320	12	520	68	13	24	120	960	131	14	960	131	14
3.	16	38	26	11	42	2	12	54	19	35	54	19	35
4.	96	28	156	58	37	12	72	324	100	31	324	100	31
5.	64	13	104	30	29	4	24	192	53	28	192	53	28
6.	64	8	104	25	24	4	24	192	42	22	192	42	22
7.	128	18	208	52	25	8	48	384	83	22	384	83	22
8.	128	2	208	18	9	12	72	408	31	8	408	31	8
9.	64	38	104	87	84	6	36	204	161	79	204	161	79
10.	48	15	78	25	32	4	24	150	52	35	150	52	35
11.	48	7	78	21	27	6	36	162	36	22	162	36	22
12.	16	2	26	6	23	2	12	54	9	17	54	9	17
13.	16	14	26	23	89	2	12	54	45	83	54	45	83
14.	64	15	104	16	15	8	48	216	35	16	216	35	16
15.	16	10	26	17	66	2	12	54	30	56	54	30	56
16.	16	3	26	10	39	1	6	48	14	29	48	14	29
17.	16	14	26	23	89	1	6	48	45	94	48	45	94
18.	240	16	390	31	8	18	108	738	55	8	738	55	8
19.	240	40	390	117	30	20	120	750	199	27	750	199	27
20.	32	5	52	6	12	4	24	108	15	14	108	15	14
21.	128	21	208	38	18	16	96	432	77	18	432	77	18

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 上				6 学 級 以 上				合 計 (48)			
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		基 数		6 学 級 以 上 (6)		(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C') ×100 B/A' 合計保有率	
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数				(C) B/A× 100 保有率
	基 数	(A) 基数× 100 保有率	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 100 保有率	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 100 保有率	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 合計	(B) 合計
(ト) 保健体育科 教材名 (続)												
22. 砲丸	6	16	17	165	35	22	8	16	33	300	67	22
23. ビンポン台	2	17	53	52	38	73	4	10	42	108	65	60
24. 柔道用着	2	32	53	52	63	121	4	9	38	108	89	82
25. " たゝみ	50	800	3	1,300	117	9	50	20	7	2,400	157	7
26. 剣道防具	25	400	1	650	4	1	25	5	3	1,200	10	1
平 均			(740)			(959)			(810)			(853)
			28.5			36.9			31.2			32.8
(チ) 技術・家庭科教材名												
1. くわ	5	80	64	130	141	110	8	42	88	258	247	96
2. シェル	5	80	64	130	106	82	8	25	52	258	195	76
3. 肥料おけ	1	16	13	26	26	100	2	14	117	54	53	98
4. 木ばさみ	5	80	18	130	18	14	8	9	19	258	45	17
5. ひしやく	5	80	11	130	16	12	8	7	15	258	34	13
6. じょうろ	3	48	22	78	23	29	4	8	33	150	53	35
7. 移植ごて (栽培培平均)	10	160	40	260	126	49	16	15	4	836	181	22
8. 製図板	30	480	250	780	121	16	50	219	73	1,260	590	47
9. T 定規	30	480	278	780	527	68	50	224	75	1,260	1,029	82
10. 三角定規	30	480	82	780	102	13	50	65	22	1,260	249	20
11. 翼形定規	6	96	2	166	17	11	10	3	5	312	22	7
12. 製図器具 (製図平均)	30	480	248	780	260	33	50	191	64	1,260	699	55
13. 工 作 台	7	112	21	182	47	26	12	6	8	366	74	20
14. 平かん	14	224	85	364	181	50	24	57	40	732	323	44
15. 台なおし	1	16	5	26	10	39	3	1	6	60	16	27
16. 台なおし	14	224	77	364	171	47	24	60	42	732	308	42
17. 両刃のこぎり	7	112	115	182	337	185	12	88	124	366	540	147
18. のこぎり	7	112	20	182	52	29	12	6	8	366	78	21

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下						6 学 級 以 上			合 計 (48)					
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		基 数	基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') 合計 (A)の 合計	(B') 合計 (B)の 合計	(C') 合計 (C)の 合計
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数											
技術・家庭科 教材名(続)															
45. やつとこ	80	28	35	130	27	21	48	8	21	48	8	17	258	63	24
47. ねじ廻し	80	53	66	130	87	67	48	8	67	48	50	104	258	190	74
48. 自転車修理用具	80	13	16	130	25	19	48	8	19	48	4	8	258	42	16
49. 自転車	80	11	14	130	20	15	48	8	15	48	5	10	258	36	14
50. 油さじ (機械、平均)	80	7	9	130	16	12	48	8	12	48	5	10	258	28	11
51. ニベリン	80	45	56	130	122	94	48	8	94	48	17	35	258	184	71
52. ベンチ	80	34	43	130	71	55	48	8	55	48	10	21	258	115	45
53. ラジオペンチ	80	38	48	130	124	95	48	8	95	48	17	35	258	179	69
54. 電気はんだごて (電気、平均)	160	30	19	260	161	62	96	16	62	96	26	27	516	217	42
55. 裁縫板	128	34	27	208	46	21	78	13	21	78	31	40	414	111	27
56. ミシン	128	33	26	208	81	38	78	13	38	78	32	41	414	146	35
57. ミシン用いす	128	32	25	208	47	22	78	13	22	78	28	36	414	107	26
58. 電気アイロン	96	31	32	156	67	43	54	9	43	54	17	32	306	115	38
59. 裁ちばさみ	128	48	37	208	68	32	78	13	32	78	18	23	414	134	32
60. 巻き尺 (2m)	240	11	5	390	37	9	150	25	9	150	13	9	780	61	8
61. 洗たく用金だら	96	1	1	156	16	10	60	10	10	60	5	8	312	22	7
62. 鏡	16	3	19	26	12	46	6	1	46	6	0	0	48	15	31
63. ルレット	128	1	1	208	35	16	78	13	16	78	10	13	414	46	11
64. 仕立台	16	5	31	26	25	96	6	1	96	6	2	33	48	32	67
65. 洗濯板	96	0	0	156	16	10	60	10	10	60	0	0	312	16	5
66. 染色器	48	2	4	78	27	36	30	5	36	30	4	13	156	33	21
67. 被服標本 (被服、平均)	16	3	19	26	7	27	6	1	27	6	2	33	48	12	25
68. 調理台	80	11	14	130	28	22	48	8	22	48	9	19	758	48	6
69. 自動上皿ばかり	16	9	56	26	29	111	6	1	111	6	3	50	48	41	85
70. 計量カップ	96	6	6	156	43	28	66	11	28	66	25	33	318	74	23
71. 計量スプーン(組)	96	8	8	156	40	26	66	11	26	66	22	33	318	70	22
72. 温度計 (200 C°)	80	5	6	130	20	15	66	11	15	66	1	2	276	26	10

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学級以上				6 学級以上				合計 (48)		
	1~2 学級 (16)		3~5 学級 (26)		基 数		6 学級以上 (6)		(A')	(B')	(C')
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(A) の 合計	(B) の 合計	(C) の 合計保有率 ×100
(ホ) 技術・家庭科 教材名 (続)											
73. 柱時計	16	4	25	26	8	31	1	6	48	15	31
74. 厚ふたなべ	96	6	6	156	17	11	11	66	318	30	9
75. なべ (20cm以上)	192	45	23	312	118	38	22	132	636	201	32
76. フライパン	96	28	29	156	72	46	11	66	318	120	38
77. ボール (14cm以上)	192	38	20	312	112	36	22	132	636	175	27
78. 洗いおけ	96	19	20	156	33	21	11	66	318	58	18
79. ほうちょう	192	55	29	312	126	40	22	132	636	220	35
80. まないた	96	21	22	156	92	59	11	66	318	138	43
81. 流し	80	8	10	130	15	12	8	48	268	29	11
82. 食台	80	0	0	130	4	3	8	48	258	4	2
83. 試食器	48	5	10	78	14	18	6	36	162	27	17
84. ひし器	96	15	16	156	41	26	11	66	318	71	22
85. あわ立て器	96	10	10	156	46	30	11	66	318	63	20
86. パッケージ	96	24	25	156	65	42	11	66	318	104	33
87. ツツ	96	17	18	156	44	28	11	66	318	63	20
88. ひしゃく	96	19	20	156	41	26	11	66	318	62	20
89. 食器	480	150	31	780	1,070	137	50	300	1,560	1,580	101
90. 応接用茶器 (調理平均)	96	62	65	156	17	11	11	66	318	130	41
(総平均)			(1,567) 17.4			(3,602) 40.0					(29.0)
(リ) 理科教材名											(28.4)
1. 巻尺	16	6	37	26	10	39	1	6	48	18	38
2. ステンダー	112	26	23	(9)※234	71	30	13	78	424	128	30
3. 上皿てんびん	48	11	23	(5) 130	27	21	7	42	220	61	28
4. 自動上皿ばかり	16	7	44	26	8	31	1	6	48	18	38
5. ばねばかり	112	33	29	(9) 234	61	26	13	78	424	121	29
6. 温度計	112	49	44	(9) 234	84	36	13	78	424	174	41

※ 理科教材に限り学校規模別基数が細かくなっている。(9)の行はその基数を示す。

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分 (リ) 理 科 教 材 名 (続)	5 学 級 以 下					6 学 級 以 上					合 計 (48)				
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)			基 数	6 学 級 以 上 (6)		(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C)の 合計	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C)の 合計	
	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数		(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数							(B) 保有数
	基 数	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A) 基数× 学校数	(B) 保有数	(C) B/A× 100 保有率	(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計
7. 直流電圧計	3	48	13	27	(5) 130	17	13	7	42	18	43	220	48	22	
8. 交流電圧計	3	48	14	29	(5) 130	18	14	7	42	18	43	220	50	23	
9. 足ふみふいご	1	16	7	44	26	15	58	1	6	7	116	48	29	60	
10. コルク圧搾器	1	16	5	31	26	17	65	1	6	7	116	48	29	60	
11. 磁製乳ばち	1	16	12	75	26	22	85	1	6	8	133	48	42	87	
12. 鉄製スタンド	7	112	27	24	(9) 234	57	24	13	78	25	32	424	109	26	
13. 漕 斗 台	3	48	14	29	(5) 130	39	30	7	42	15	36	220	68	31	
14. 鉄製三脚	7	112	23	21	(9) 234	72	31	13	78	31	40	424	126	30	
15. 試験管立て	7	112	49	44	(5) 234	93	40	13	78	34	44	424	176	42	
16. アルコールランプ	7	112	50	45	(9) 234	115	49	13	78	39	50	424	204	48	
17. けんび鏡	6	96	33	34	(8) 208	64	31	12	72	28	39	376	125	33	
18. 天体望遠鏡	1	16	0	0	26	4	15	1	6	2	33	48	6	13	
19. ル ー ベ	7	112	57	51	(9) 234	69	30	13	78	33	42	424	159	38	
20. 実験用てこ	1	16	7	44	26	12	46	1	6	5	83	48	24	50	
21. ホールビペット	3	48	8	17	(5) 130	30	23	7	42	4	10	220	42	19	
22. メスビペット	2	32	9	28	52	16	31	2	12	5	42	96	30	31	
23. ビュウレット	2	32	9	28	52	19	37	2	12	5	42	96	33	34	
24. メスフラスコ	3	48	13	27	(5) 130	10	8	7	42	10	24	220	33	15	
25. 滑 車	7	112	13	12	(9) 234	38	16	13	78	9	12	424	60	14	
26. 輪 軸	3	48	9	19	(5) 130	24	18	7	42	5	12	220	28	17	
27. 歯車及び調車装置	1	16	8	50	26	14	54	1	6	4	67	48	26	54	
28. 真空ポンプ	1	16	4	25	26	13	50	1	6	3	50	48	20	42	
29. 熱伝導比較装置	1	16	4	25	26	27	104	1	6	4	67	48	35	73	
30. 線膨張試験器	1	16	8	50	26	12	46	1	6	5	83	48	25	52	
31. 光 学 台	1	16	7	44	26	16	62	1	6	6	100	48	29	60	
32. 光学用水槽	1	16	8	50	26	13	50	1	6	3	50	48	24	50	
33. 平 面 鏡	1	16	17	106	26	14	54	1	6	3	50	48	34	71	
34. とつ面鏡	3	48	22	46	(5) 130	29	22	7	42	8	19	220	59	27	
35. おう面鏡	3	48	22	46	(5) 130	29	22	7	42	13	31	220	64	29	
36. とつレンズ	7	112	22	19	(9) 234	48	21	13	78	15	19	424	85	20	

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下				6 学 級 以 上				合 計 (48)				
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		基 数	6 学 級 以 上 (6)		(A') (A)の 合計	(B') (B)の 合計	(C') (C)の 合計	(A) × 100 保有率	(B) × 100 保有率	(C) × 100 保有率
	(A)	(B)	(C)	(A)		(B)	(C)						
	基数 × 学校数	保有数	保有率	基数 × 学校数	保有数	保有率	基数 × 学校数	保有数	保有率	(A) × 100 保有率	(B) × 100 保有率	(C) × 100 保有率	
(リ) 理 科 材 名 (続)													
37. おうレンズ	7	112	18	(9) 234	48	21	13	78	8	10	424	76	18
38. プリズム	1	16	94	26	27	104	1	6	10	167	48	52	108
39. 直角プリズム	2	32	34	52	16	31	2	12	6	50	96	33	34
40. おんさ	3	48	25	(5) 130	34	26	7	42	11	26	220	57	26
41. モノコード	1	16	44	26	7	27	1	6	5	83	48	19	40
42. 棒磁石	3	48	37	77	39	30	7	42	19	45	220	95	43
43. U形磁石	3	48	24	(5) 130	34	26	7	42	17	41	220	75	34
44. 磁方位用磁石	3	48	47	97	42	32	7	42	26	62	230	115	52
45. 電磁針	3	48	0	(5) 130	6	5	7	42	5	12	220	11	5
46. 電磁石	3	48	11	(5) 130	31	24	7	42	19	45	220	61	28
47. 電磁鈴	1	16	56	26	13	50	1	6	3	50	48	25	52
48. 電源装置	1	16	4	26	8	31	1	6	1	17	48	13	27
49. 傾面	3	48	13	(5) 130	17	13	7	42	15	36	220	45	20
50. 半切トツレンズ	3	48	6	(5) 130	12	9	7	42	4	10	220	22	10
51. ニュートンの色板	7	112	0	(9) 234	8	3	13	78	8	10	424	16	4
52. 共鳴おんさ	1	16	38	26	11	42	1	6	2	33	48	19	40
53. 静電棒	1	16	11	26	19	73	1	6	7	116	48	37	77
54. 電気フリコ	3	48	12	(5) 130	40	31	7	42	18	43	220	70	32
55. はく検電機	3	48	10	(5) 130	23	18	7	42	15	36	220	48	22
56. 電解装置	3	48	11	(5) 130	36	28	7	42	19	45	220	66	30
57. 電解器	3	48	8	(5) 130	20	15	7	42	11	26	220	39	18
58. 解剖ざら	6	96	38	(8) 208	67	32	12	72	34	47	376	139	37
59. 星座早見盤	7	112	29	(9) 234	53	23	13	78	38	49	424	123	29
60. 三球儀	3	48	16	(5) 130	36	28	7	42	16	38	220	68	31
61. 百葉箱	1	16	56	26	9	35	1	6	5	83	48	23	48
62. 風向風力計	1	16	9	26	13	50	1	6	3	50	48	25	52
63. 雨量計	1	16	10	26	18	69	1	6	1	17	48	29	60
64. アネロイド気圧計	1	16	7	26	16	62	1	6	3	50	48	26	54
65. 最高温度計	1	16	11	26	16	62	1	6	4	67	48	31	64
66. 最高湿度計	1	16	4	26	11	42	1	6	2	33	48	17	35

第 11 表 学校規模別中学校教材保有率 (%)

学校規模 区分	5 学 級 以 下						6 学 級 以 上 (6)			合 計 (48)				
	1~2 学 級 (16)		3~5 学 級 (26)		基 数		基 数	(A) 基数 × 学校数	(B) 保有数	(C) $\frac{B}{A} \times 100$ 保有率	(A') 基数 × 学校数	(B') 保有数	(C') $\frac{B'}{A'} \times 100$ 保有率	
	(A) 基数 × 学校数	(B) 保有数	(C) $\frac{B}{A} \times 100$ 保有率	(A) 基数 × 学校数	(B) 保有数	(C) $\frac{B}{A} \times 100$ 保有率								(A') 基数 × 学校数
(リ) 理科教材名 (続)														
'67. 最低温度計	16	4	44	26	10	38	1	6	3	50	48	17	35	
'68. 地中温度計	16	6	38	26	11	42	1	6	3	50	48	20	42	
'69. 乾 湿 計	16	7	44	26	14	54	1	6	3	50	48	24	50	
(計)			(2,626)			(2,496)				(3,336)			(2,597)	
平 均			38.1			36.2				48.3			37.6	

第12表 図書保有数別学校数

学 校 規 模 図書冊数	小 学 校				中 学 校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
0～ 50	4	3		7				
51～ 100	1	8		9				
101～ 150	2	4	1	7	2	2		4
151～ 200	3	8	1	12	2	1		3
201～ 250	2	2		4		3		3
251～ 300	2	11	5	18	1	4		5
301～ 350		9	1	10	1	1		2
351～ 400		8	4	12		1	1	2
401～ 450		6	5	11	2	3		5
451～ 500	1	2	3	6	2	3		5
501～ 550		2	4	6	1	2		3
551～ 600		2	3	5	1	2	1	4
601～ 650		2	2	4	2			2
651～ 700	1			1		2		2
701～ 750			2	2	1	2	1	4
751～ 800		2	1	3	1			1
801～ 850			1	1				
851～ 900			1	1				
901～ 950								
951～1,000							1	1
1,001 以上			5	5			2	2
不 明	1	11	1	13				
計	17	80	40	137	16	26	6	48

第13表 学童一人当たり教材費別学校数

学 校 規 模 教材費 (円)	小 学 校				中 学 校			
	I	II	III	計	I	II	III	計
280円 (小基準) 以下		1	3	4				
420円 (中基準) 以下		2	9	11		1		1
421～ 600		5	11	16	1	2	4	7
601～ 800	1	8	3	12		2		2
801～1,000		9		9		1		1
1,001～1,500		19	5	24		4		4
1,501～2,000	1	10	4	15		5		5
2,001～2,500		6	1	7	2	2	1	5
2,501～3,000		9		9	2	2		4
3,001 以上	13	6	1	20	11	5	1	17
不 明	2	5	3	10		2		2
計	17	80	40	137	16	26	6	48